

平成 27 年度

指宿市学校のあり方について考える会

(検討結果報告書)



平成28年2月

学校のあり方について考える会

(はじめに)

昨年3月には、「平成26年度 指宿市学校のあり方について考える会（検討経過報告書）」を地域部会委員でまとめ、市議会議員、地域代表、学校代表、PTA代表、市及び教育委員会などの関係者に配布させていただきました。

この2年間、それぞれの地域部会では、学校再編に関して保護者や地域の方々がどのように考えているのか、地域部会委員もそれぞれの考えで意見を出し合い、保護者や地域の方々の意向確認のためにはどのような説明が必要なのかなど、会議の中で真剣に協議を重ねて、平成26年度の各小学校区での「語る会」、平成27年度の各中学校区での「検討会」を開催し、保護者や地域の方々の学校再編に関する思いを伺ってまいりました。

開聞地域部会、山川地域部会では、平成26年度は、それぞれの地域部会で学校再編について検討してきましたが、「20年後、30年後の児童・生徒数の推移と教育的視点を第一に考えたときに、地域の枠を越えた学校再編の可能性もあるのではないか」という意見で一致し、平成27年度は、開聞・山川地域合同部会協議により、保護者や地域の方々に学校再編（例）を示して意見を伺い、地域部会委員報告として掲載しています。

指宿地域部会では、平成26年度の協議のまとめが「学校や地域が抱える課題に違いがあることから、保護者や地域の方々に、それぞれの学校の児童生徒数の推移や学校教育の現状・課題など、更に説明する必要があるのでは」となりましたので、平成27年度は、地域部会での検討経過や保護者アンケート結果、学校での教育課題緩和に向けた取組など報告し、意見を伺い、地域部会委員のこれまでの検討や今後の検討の方向性に関する意見を掲載しています。

市内地域間で、学校再編に関する議論の進展状況に差が出ていますが、今後の展開については、これまでの保護者や地域の方々の意見を参考にして、教育委員会が学校再編の方向性を明確に示して、理解を得られるよう努めることが大切であると考えているところです。

今回、これまでの検討のまとめとして本誌を作成しましたので、今後の学校再編等に関する議論の進展を図る上で参考となれば幸いです。

結びに、学校再編の議論については、子どもたちへの教育的視点を最優先にして展開してまいりました。今後も、そのことを念頭に置き、関係各位のご協力の下、3地域が連携し、市内全域での議論が更に進展することを願っております。

平成28年2月

指宿市学校のあり方について考える会

| | |
|-------------|---------|
| 会 長兼開聞地域部会長 | 田 中 健 一 |
| 副会長兼山川地域部会長 | 今 村 善 哉 |
| 指宿地域部会長 | 中 村 敬 輔 |
| 指宿地域部会座長 | 堀 之 内 勇 |

1 学校のあり方について考える会(開聞・山川地域合同部会)委員報告

- (1)開聞・山川地域小中学校再編等検討会のまとめ…………… 1
- (2)今後の小中学校再編等検討に関する意見…………… 2
- (3)地域部会委員意見…………… 3

2 学校のあり方について考える会(指宿地域部会)委員報告

- (1)これまでの地域部会での検討に関する委員意見…………… 6
- (2)今後の小・中学校のあり方検討の方向性に関する委員意見…………… 6

1 学校のあり方について考える会（開聞・山川地域合同部会）委員報告

（1）開聞・山川地域小中学校再編等検討会のまとめ

昨年度各小学校区で開催しました「学校のあり方について語る会」の参加依頼については、広報誌への掲載、全世帯へのチラシ配布及び同報無線（市広報）での周知を行いました。参加者数は、開聞地域では91人、山川地域では187人と少ない状況でした。

地域部会の委員としては、学校再編についての議論を重ねることの重要性から、説明会等に、地域や保護者の多くの皆さんに参加して意見を出していただき、その意見を集約することが必要と考えています。そのため、今回の検討会開催に当たっては、区長さん方など地域代表者に開催案内放送をお願いし、また、保護者へは、地域部会委員が直接地区PTA等で参加呼びかけを行うなどして、参加者増を図るための手立てを講じたところです。しかしながら、今回の検討会への参加者数は、開聞地域で94人、山川地域で148人という結果でした。

検討会の参加者が少ないことについては、検証すべきことではあると考えますが、「結局は行政の考えで決めるのだろう」、「自分とは関係がない」、「保護者アンケートで自分の意見を伝えたから、参加する必要はないだろう」、「自分の子どもが在学中は実現しないだろう」など様々な理由ではないかと、推察するところです。

また、昨年度の「学校のあり方について語る会」では、各小学校区単位を中心に開催しましたが、各小学校区それぞれに「学校に対する思い」のある意見が出されたところです。

今回の検討会の開催単位については、「学校再編（例）として開聞・山川地域全体での（例）も説明することから、できるだけその対象となる校区の皆さんに同じ会場に集まっていたいただき、お互いの考えを聞き相互理解を図ることも必要ではないか」との委員意見の集約になりました。

そのことから、開聞地域、山川地域全体で開催することの必要性も考えましたが、対象エリアが広すぎることから、開聞地域、山川地域別で同じ内容の検討会を2回ずつの計4回開催したものです。

検討会の意見交換では、

- ・ これからの子どもたちは、国際感覚を持った大人になってほしい。
- ・ 小さい時から、たくさんの友だちと学び、協調性を育くみ、お互い切磋琢磨して、自分の意見をしっかり述べられる大人になってもらいたい。
- ・ 山川・開聞地域に住んでいても、その学校に子どもが少ないから、良い教育環境でないから、指宿地域に住みたいという人たちがいて、ますますこちらの地域の学校の人数が少なくなっている。
- ・ 新しい学校を山川・開聞地域に創って、良い学校施設・環境設備を整えてほしい。
- ・ 小さな単位（集落、小学校PTA、中学校PTAとか）で、こういう会を設けてほしい。
- ・ 山川、開聞地域だけの問題ではない。指宿市全体の問題である。市長、市議会議員も一緒になって、議論すべきところだと思う。

を始め、多くの意見・要望がありました。

また、検討会に参加された方のアンケート調査の「再編の必要性について」の結果を見ますと、開聞地域、山川地域ともに、多くの方が「学校再編を行うことが必要」と考えており、学校再編の対象校・形態については、「小学校・中学校ともに再編することが必要で、小中一貫校（義務教育学校）を望んでいる」ということがうかがえます。これは、地域住民、保護者双方が同じような結果となっています。

アンケート調査での自由意見では、学校再編が必要ないと考えている方の意見、必要と考えている方の意見、決めきれない、分からないと回答した方の意見に分類し、報告書に列記したところですが、それぞれ学校再編について関心が高く、真剣に考えての意見をいただいています。

今後の学校のあり方について議論を深めていく中で、大いに参考となるものと考えますので、市、教育委員会の検討で十分活用されるよう望みます。

(2) 今後の小中学校再編等検討に関する意見

私たち「学校のあり方について考える会」の地域部会委員は、昨年度開催した「学校のあり方について語る会」や今回開催した「検討会」での参加者の意見等を基にして協議を重ねてきましたが、今後も学校再編の議論を深めていくことが大切であると考えています。

昨年度開催した「語る会」の参加者は、多くの参加周知を講じたにも関わらず、少ない結果でした。その反省から、今回開催した「検討会」への参加周知については、参加者増を図るため、保護者代表委員がPTA等で直接参加依頼を行うことや、地域や保護者の方々の関心を引くよう「学校再編」という文言を会の名称に盛り込むなど、市が開催する説明会等では、これまでにないくらいの周知方法を考えて取り組みましたが、結果として昨年と同様に参加者の少ない状況でした。

学校再編が必要なのか、必要ではないのかは、地域住民、保護者が、機会を捉え議論し、自ら意見をまとめていくことが重要と考えます。そのためには、学校再編検討の進展を図ることの重要性をどのように地域住民、保護者に知らせていくのが重要な課題ではないかと考えます。

これまでの約1年半の取組から、地域部会委員の意見集約としましては、昨年度開催した「語る会」、今回開催した「検討会」での意見交換やアンケートでの自由意見の中から、多くの方々が感じ考えていることや建設的な意見を掘り起こし、今後の検討に活用すべきでないかと考えます。

また、保育（所）園、幼稚園、小中学校の全保護者世帯の9割が提出した保護者アンケート結果を参考とするべきではないか、そのことから、『学校再編の検討の中心となる方々は、地域内に住んでいる子どもたちやその保護者、今後、地域づくりの中心となっていく青年世代の方々であり、その方々の意見を重視して、学校再編の議論を展開していく必要があるのではないか』ということになりました。

今後早急に、教育委員会だけでなく、市長部局を含めて市役所全体の関係する部署間の連携を強化し、積極的に学校再編に関する情報収集に努め、市が考える方向性、具体策等について広報誌等で広く公表する必要がないか検討していただき、また、区やPTA組織単位からの要請があれば、そこに教育委員会が出向き、学校の現状、課題など一般的な情報提供を行い、地域での議論の活性化を図られることを要望します。

昨年6月から地域や保護者の方と一緒に進めている学校再編の議論は、県内の各自治体でも議論が重ねられており、昨今の新聞記事等でも分かるように、多くの自治体で過小規模校の統廃合が進められています。

開聞・山川地域で開催した「語る会」、「検討会」への参加者は少ないでしたが、地域に住んでいる私たち委員の意見としては、この参加者の意見が、地域内全体の意見と捉えてもいいのではないかとということです。

学校再編の議論は全市的に進めることとして、教育委員会が指宿地域でも展開していますが、開聞・山川地域との学校規模の違いや指宿地域内の学校規模の差が大きいことから、議論の展開が遅いようです。

開聞・山川地域では、「指宿地域はなぜ進まないのか。開聞・山川地域だけがいつも先に縮小させられる」と言った意見などもあります。開聞地域・山川地域では少子化が急激に進行しており、若い世代の市中心部への転居が多い状況があります。その歯止め策の一つとして、新しい教育環境の構築を早急に進め、若い世代の流出を止めるべき」という切実な意見もあります。

指宿地域での検討が進んでいないから、開聞、山川地域もじっくり検討すべきとの意見は持たないでいただきたい。補足させていただけば、開聞、山川地域では、40年程前の昭和49年度、50年度に中学校の統合を経験しています。そのときの経験を生かした意見もあり、指宿地域とは議論の土台からして違うという考えもあることを申し添えます。

また、学校再編の検討を展開することに、現在の教育の現状等に関係なく「学校の存在が地域振興に欠かせない。学校は1人になるまで残すべき」との地域重視の観点からの強い反対意見もあります。しかし、平日の昼間を中心とした学校での教育活動と放課

後や土曜日、日曜日などを中心とした地域での青少年育成活動とは、切り離して考えるべきではないかと思えます。

学校再編に関しては、全国的に大きな議論が展開されています。指宿市でも全市的な検討が始められたことで、昨年の6月議会から27年9月議会までに学校再編に関して4件の一般質問があり、議員の考えが述べられています。地域住民や保護者が学校再編を必要としているのか、または、必要としないかの意向集約方法については、教育委員会から委嘱を受けた私たち地域住民、保護者代表の「学校のあり方について考える会地域部会委員」でも協議を重ねている段階です。

今後、地域の意向集約が進み、地域住民、保護者から一定の理解が得られたと教育委員会が判断すれば、市議会に提案することになるかと思えます。これまで、県内の自治体が議会に提案したことに対して、地域の意見集約が不十分として議会が否決の判断をした例もあるようです。教育委員会、市ともに、そのような事態が起きないよう住民の意向確認、集約に万全を期していただきたいと思っています。

学校再編の最終判断は、市民の代表者である市議会議員の判断に委ねられることとなりますので、今後、学校の教育課程、学校位置を含めた施設整備、通学方法、地域との連携など幅広い検討が必要になると思えます。開聞・山川地域の全区長や老人クラブの地域代表者、小・中・幼児保護者、青年世代の代表などで検討する会を設置して、幅広い世代の意見が聞ける体制づくりに努めていただきたいと思えます。

学校再編については、議会の同意が得られて決定したとしても、早くても数年、大きな再編の場合には5年以上かかるようです。子どもたちへの教育環境は刻々変化しています。地域から若い世代が流出している校区にとっては、早急な結論を望んでいる状況もうかがえます。

「難しい課題だからじっくり地域の意向を確認していけばよい」と議論の展開を引き伸ばすのではなく、難しい課題だからこそ、学校を再編する、しないの結論を急いでもらいたいとの意見が地域には多いことを十分認識していただき、年度内には、今後の検討方針を定められるよう要望します。

(3) 地域部会委員意見 (※順不同で要約して掲載)

- ・ 参加されていない方の意見を求めることは困難。参加者の意見で集約、決定すべき。
- ・ 小単位の検討会等を開催し、多くの意見を参考にするのが良いのでは。
- ・ これまで行政が開催している説明会等への市民参加が少ない状況から考えると、今回の検討会への参加者が少なかったことは、仕方がないと捉えるべき。
- ・ 開催周知をしっかりと行ったことの結果であれば、今後の検討会等への参加が少なくても、そこで出された意見集約結果を地域、保護者の意見総括として捉えるべき。
- ・ アンケート結果で、小中一貫校（義務教育学校）への関心が高い。市は、新しい学校づくりの一例として調査・研究を進めてほしい。
- ・ 地域内学校のそれぞれの敷地面積の情報を出して、今後の検討の参考に。
- ・ 今後、山川、開聞地域で、病院（小児科）の充実。そのために企業誘致、市営住宅を造る（学校跡地でもよい）計画を出して、この地域への人口増対策をしてほしい。
- ・ 学校再編の決定があっても、それから施設の建設などに相当な年数がかかる。早く議論を進めて決定までに時間をかけないでほしい。学校再編の反対意見は言いやすいが、再編に賛成の人は、人前で小学校がなくなることが前提となる学校再編賛成とは声に出して言えない。地域には、一刻も早く再編してほしいという意見が多いことを考えて進めてほしい。

- ・ 両地域小中一貫校になって、新たな場所に校舎を建てるときは、開聞岳が見えるところがよい。周辺に湖、畑、工場（漬物、酒）、港、最南端駅など、たくさん学べる所があるので、どこにも負けない学べる場所になるようにしてほしい。日本本土最南端の義務教育学校として、どうにか人が集まらないかと思う。
- ・ 現在、子育てをしている保護者に対して、説明会等を開催していくべき。
- ・ 地域から学校がなくなると、活気がなくなるとか等の意見はよくある。学校の場所が変わるだけで、子どもが地域からいなくなるわけではない。そのことを地域の方には分かかってほしい。
- ・ 他市の市町村で再編された所が、どのように進めたかを住民は知りたいと思う。
- ・ 何のために答申（指宿市望ましい学校環境整備計画）が出されているのか。そのことを踏まえて、説明していくべき。
- ・ 最終判断は議員になる。教育委員会が議会に諮ってから市議会で議論を始めるのではなく、今から議員全員で独自に勉強する会を行ったり、直接地域に議員が出向いて地域の声を聞いたりすべきではないかと思う。
- ・ 小中学校を再編することについて、アンケート結果では関心が高い。しかし、説明会への参加が少ないことから、もっと周知方法を考えるべき。
- ・ 検討会に参加された方は、どこまで話が進んでいるのか、分からないようだった。
- ・ 各学校のPTA役員等で考えをまとめることが必要。早めに再編を進めてほしい。
- ・ 小単位での説明会を望むが、個人的な意見がどんどん出てきても、集約していくのは大変だし、まとめるだけで一苦労であることは間違いない。今回の検討会に向けては、たくさん周知してきたはず。参加されない方は、関心度の低さとみなし、出た意見を大事にし、委員でもんでいく方がよいような気がする。
- ・ 今後は、具体的に小中一貫なのか、小、中分けるべきか、また、新設なのか、今ある物を活用するのか、前向きな話し合いを。
- ・ 今年、どこかで学校再編に議会が反対したとの記事を新聞で見た。他の町でも同じことがあった。指宿市議会でも色々質問があるようだが、私たち委員の意見が通るのか。住民説明会でおおた賛成しているのに、一部反対の意見があるということで議会で反対となっているような記事だった。地域の思いと議員の思いは違うのか。それを見て、議員もしっかり民意を感じるべきと思った。
- ・ 具体的に、今複式学級になっている学校のPTAの集まりなどで検討していき、再編の大きな案とは別に、再編するまでの間に困っている複式学級を減らすよう2つの案での同時進行も必要なのでは。
- ・ 部活動を3校合同で行っています。毎日の練習は少ない人数で行い、合同練習や試合で3校一緒です。その中で、デメリットばかりでなく、メリットも大きく、子どもたちも仲良くなり、楽しそうです。
何より、子どもたちの教育をはじめ、部活動などの環境を整えてあげることが先決だと思います。大人たちの先入観を捨てて、同じ立場になり考えていくことで、いろいろなことが解決していくのではないかと思う。
- ・ いつまでも地域、保護者の意見を聞くのではなく、市が具体的方針を出していく時期ではないか。

- ・ 検討会の期日については、チラシ配布、広報誌できめ細やかになされたが、保護者の意識として、アンケートで意思表示したので参加するまでもないと考えられたのではないかと推察した。今後は、保護者アンケートの結果を重視して、新しい学校づくりへの調査、研究を進めるよう要望する。
- ・ 来年からは、具体的な検討になると思う。全ての地区の区長さん、学校の活動に参加している老人クラブの方等も委員の中に入れてほうがいいのでは。それと、PTAでの検討も重要と思うので、PTA会長を入れてほうがいいのでは。
- ・ 新しい学校づくりの骨子がまとまった段階で、各小学校区で説明会を実施していく必要があると考える。スクールバスの運行計画や再編への日程が明確になると保護者は説明会に出席するのではないか。
- ・ 子どもの数が少なくなってきたことと、質の高いものを求められている現状があります。学校はあるレベルの数の子どもがいて学び合う、音楽専科、理科専科といった専門スタッフが小学校でも求められている。英語の比重が増えれば、ますます今の形とは異なってくると考える。地域に「子どもと最低限の数の先生がいればいい」といった時代ではないことを、この「あり方」の会合を繰り返すことで、地域の方々の理解が得られると思う。
- ・ あれだけの参加周知をしたにもかかわらず、この少なさに残念です。「事前のアンケートで思いを託したから、後は結果にまかす」という気持ちなのか。市民全体で考えるべきことなので、広報誌などで今回（検討会）の参加状況、アンケート結果、今後の市の取組等を掲載し、もっと多くの住民に考えさせるべき。
- ・ 市の施策として、山川・開聞地域で小中一貫教育（一体型）に取り組むという方針を打ち出してもらえば、進展が図られるのではないか。
- ・ 保護者の9割の回答によるアンケート結果は、非常に重い意見。保護者アンケート結果を活用しないのは、保護者の意見を無駄にすることになる。
- ・ 検討会の結果を広報誌等で特集を組めば、市民の関心も高まるのではないか。

2 学校のあり方について考える会（指宿地域部会）委員報告

（1）これまでの地域部会での検討に関する委員意見

- ・ 通常、地域の方々の心情としては、変化をあまり望まない傾向が強いと感じる。
今後の学校のあり方については、市の施策と連動させながら、指宿市としての考えをもっと前面に出してもよいのではないかと思う。当然、反対も賛成の意見もあると思うので、反対の意見に十分な説明ができる、また、納得させられるような施策の方針を提示していけばいいと思う。というのも、これまでの話合いがなされ、アンケートや住民説明会等で進展はあると言えるが、内容面においては、進展があると思えないからです。
このままいけば、「当分の間は、このまま」という印象を受けています。
- ・ 地域部会では、どのように地域の方々に現状を伝えるかを検討してきたと思っていたのですが、検討会では将来を理解して発言している人は少なく、理念や理想を発言しているように感じました。この状況で、変化を生むことは難しいと思います。
- ・ 全般的な協議は、出尽くしたと考えています。
協議の中で、いろいろな考え方、案が出てきたことは、とても良かったと思います。
更に検討会を充実するためには、多分具体的な案を出していく方向しかないと考えますが、一つ一つ深く掘り下げて、地域や保護者に理解してもらおう。
現実には相当、差し迫る状態でない限り、統廃合とはならないと思う。
- ・ 11月に開催した「小・中学校のあり方検討会」の参加者が余りにも少なかった。一人でも多くの参加を求めるため、対策を考える必要があると思います。
検討会では、様々な質問や意見が出ていますが、ここ2年間地域部会、住民説明会をしてきましたが、今後も協議等を積み重ねても結論には至らないと考えます。
県内で再編された小中学校で児童生徒数が最大何名から最小何名で再編されているのか、これらの数を参考にして、過小規模校は最小何名になったら再編せざるを得ないこと等の案を示して、今後検討委員会で協議を重ね、住民説明会を行うようにしたらどうかと思います。
今までの指宿、山川、開聞の小中学校の再編時の資料等は残っていないのでしょうか。もし、残っておれば当時の内容等もお示しして検討したらどうでしょうか。
- ・ 3中学校区の検討会の参加者が少ないことに驚きました。特に、西指宿中学校区は池田小学校区が入っている中での参加者29名では、地域住民の声が反映されていない。
- ・ 今後の学校のあり方について、アンケートや検討会の実施により、多くの人から意見を聞くことができ、また、集計や分析もよくされていると思う。
行政側が一方的に学校統廃合案を提示し、統廃合を進めていった市町村もあるが、それらに比べれば住民の意見を積極的に聞きながら、学校のあり方を検討していく姿勢は、とても丁寧で誠意を感じる。

（2）今後の小・中学校のあり方検討の方向性に関する委員意見

- ・ 柳田小学校の児童が、北中と南中に分かれて進学する件については、今後、小学校区の見直しも含めて検討していかなければならないと思う。南中の近くに住んでいる子どもが、北中に行くことは考えられないからです。
今後のことを考えると、中学校には、北中と南中の2校にせざるを得ない状況だと考えます。その時点で、小学校区も見直していくことになると思います。

- 検討会で将来を理解して発言している人が少ない状況で、変化を生むことは難しいと思うので20年後の目線で検討する。仮に現在の小中学校数だと、どのような学校になるか。子どもたちはどんな生活になるか。検討することも必要かもしれないと考えます。

3学級→1学級だと専門教諭は配置されない。
少年団、部活動数が減少
あなたの地域の小・中学校はこうなりますと、リアルに伝えるべきです。
- 26年度「語る会」での西指宿中学校区のアンケート結果では、小学校については「1学年2学級が望ましい」がトップ。「複式学級は解消してほしい」、「地域は小学校がなくなれば、疲弊するので絶対統廃合はだめ」の意見がある。

しかし、児童数は年々減っていくようですので、いずれ統廃合は考えなければいけない時期が来るでしょう。

中学校でも「1学年2学級が望ましい」がトップ。2学級以上と答えた理由は、納得できる内容ですが、であれば、中学校でも生徒数が減少していく中で、統廃合があっても良いかなと。

地域部会においても特に反対という意見はなかったような気がします。

しかし、あれだけの設備と地域的に恵まれた環境を考えると時期尚早かな。
- アンケートの自由意見や「小・中学校のあり方検討会」に出た課題等たくさんあるようです。今後も検討委員会等で議論して指宿地域の「小・中学校のあり方」を結論付けていただきたい。
- 指宿市の財政状況を考えて、新設校を建設するより、現在の校舎を活用し、過小規模校から統合しながら、長期計画で統廃合について議論する必要がある。

さつま町の取組は参考になったので、市民に教育委員会の考えをしっかりと説明するべきである。
- 意見集約は十分行われたと思うので、それらを基に具体的な計画案を提示してもよいと思う。